

親の看取りや人間関係の疲れにそつと寄り添ってくれた「フサルタリー」の調べ。いつか講師として全国を回れたら……。

**佐藤知津子さん**

（茨城県・61歳）

「言葉を尽くしても、うまくいくとは限らない人とのつき合い。そんなときこそ「言葉を超えた何か」に出会えたら。珍しい楽器の演奏に挑戦した佐藤さんの心の変化とは？」

**うつ病一歩手間の私を救ってくれた楽器**

ハープでもなく、バイオリンでもなく、ギターでもない。ピラミッド

のような形のこの楽器の名前は「フサルタリー」。以前は楽器が全く弾けなかつた佐藤さんが、初めてフサルタリーに挑戦したのが7年前。今では、先生のギターに合わせて演奏

したりサークルの仲間と合奏して、演奏会にまで参加するようになつた。フサルタリーの魅力とはいつた。何といつても、その音色です。音も強すぎず、体と心にそつと寄り添つてくれるよう纖細で……。私が今使っているのは、やや大型のフサルタリーで、チエロのように、弦を張った側を表向きにして弾いたりもします。5オクターブ以上の音が出せ、先生が教えてくださるレパートリーは幅広く『G線上のアリア』などのクラシックや、『川の流れのよう』など日本の歌も弾くことができます。このフサルタリーは、講師である加藤先生の手作りで、私は「ルイ君」って愛称で呼んでいるんですよ。心をこめて弾くと、不思議といい音を出してくれる気がして……。

自宅でも、いつも練習するたびに癒



「フサルタリー」ってどんな楽器？

「フサルタリー」は、ギリシャ語のpsaltery(弦楽器)、psallo(爪彈く)が語源で、発祥は紀元前3世紀頃。メンバーが弾く現代版フサルタリーは手作り。加藤先生によつて、より豊かに音色が響くよう板の材質や厚みなどが工夫されている。右側が全音、左側が半音と、音の位置が決まっているので、初心者も楽しめる。



こんな  
カラフルな  
ものも！

